

りが深く、特に英国天文協会 (BAA)には頻りに報告を寄せていました。そうした中で、BAAのウィルキンス氏とパトリック・ムーア氏は、彼らが作製した月の本 (The moon; a complete description of the surface of the moon 大型の月面地図付き) に、Saheki (佐伯) クレーターを表記したのです。これはよく使われた本だったために、佐伯クレーターの名前が広がりました。

宮森作造(1891年～1976年)さんのミヤモリ谷発見

また、佐伯さんは、宮森作造 (1891年～1976年) さんが見たという谷について報告しています。宮森さんは東亜天文学会の理事長もつとめた天文家です。彼が1936年4月5日の夜にグリマルディB (実はこれが佐伯クレーター) の近くに明らかに谷を発見したとあり (実は別の人が発見していて再発見)、これで「ミヤモリ谷」と呼ばれるようになったのです。見るのがちょっと難しいので天文ファンのチャレンジ対象として有名になりました。

宮森さんは教育者として、大阪女学院短期大学教授もつとめられた方ですが、一般向けのやさしい星座の紹介や、星座早見 (写真) の著者として知られていました。



幻の？佐伯クレーターとミヤモリ谷

ところで、天体の地名は国際天文学連合 (IAU) が管理しています。火星の佐伯クレーターもIAUが命名しました。ところが、月の佐伯クレーターとミヤモリ谷は、正式なものにならなかったのです。

佐伯クレーターは、BAAのウィルキンス氏らによって1948年～1955年に渡り、IAU総会で提案された96の新月面地名候補に入っています。しかし1961年にIAUが規定したクレーター地名の規約では「亡くなった方に限る」とあり、健在だったお二人の名前はつけられることがなかったのですね。佐伯クレーターはグリマルディクレーターの中にあるので、正式にはグリマルディBと呼ばれています。ミヤモリ谷については、やはり1961年規約で、近隣の著名なクレーターの名前を取るとあり、これも幻となったのでした。しかし、海外の著名な天文家が大阪の二人を尊敬し、プッシュしたことは間違いのないことなのです。

渡部 義弥 (科学館学芸員)